

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 22 年度

事業所番号	2775500834		
法人名	社会福祉法人 寿光会		
事業所名	グループホーム寿光園		
所在地	大阪府八尾市楽音寺2丁目125番地		
自己評価作成日	平成 22年 4月 1日	評価結果市町村受理日	平成 22年 6月 28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosp/infomationPublic.do?JCD=2775500834&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪府中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 22年 4月 24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者にいきいきと自身を持って生活を送っていただくため、掃除や洗濯、食事などの日常生活場面を中心に、利用者に何らかの役割を持ってもらっているとともに、レクリエーションや四季折々の行事を企画し、生活の中に楽しみを持っていただけるよう努力しています。また、健康管理の面では、特養の診療所との連携を密にし、利用者の健康上の問題や不安な点などいつでも相談できる体制が作られています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

中河内地域で一番最初に開設されたグループホームです。長年の実績と経験が活かされ、行政との信頼関係も構築できており、市の先駆的牽引役の事業所になっています。管理者や責任者は行政や市の会合、研修での講師として積極的に参加し、認知症の啓発に取り組んでいます。「あたたかい心・あたたかい笑顔・あたたかい手」という理念は職員に浸透し、日々の支援に実践しています。職員が安心して働ける環境がよいケアに繋がるという管理者の思いは、利用者家族の満足度の高さや、職員が生き生きとした表情で働いていると家族が評価していることから現場に反映されていることが伺えます。「今日も楽しく仕事をしてきたと自分の家族に言うことが自慢です」と職員から話が出るほど、職員も充実した日を過ごしています。法人内の研修も積極的に実施されグループホームの職員も参加していますが、今後はグループホーム独自の研修を充実させる予定で、さらなるサービスの向上が期待できるグループホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念はパンフレットに記載されているほか、事務所内にも掲示している。また、申し送りなどの中で話したりしている。	「あたたかい心、あたたかい笑顔、あたたかい手」を基本理念とし、「協働・謙虚・柔軟・向上・快活」の5つの姿勢を掲げ、利用者の快適かつ安心して暮らせる住まい作りとサービスを目指して支援しています。毎日のミーティングで理念の確認を行い、職員に浸透させています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議などで地域の方々と情報交換をしているほか、夏祭りなど施設の行事に参加していただいている。また、野菜の育て方など助言をいただいている。	地域の中での福祉サービスの拠点として、「地域にある施設」から「施設のある地域」を目指しています。スーパーへの買い物や夏祭り等の行事を通して、ふれあいの場を増やす取り組みを行っています。管理者は地域の会合に積極的に出かけ、認知症の啓発も行っています。近隣の方に苗木をもらったり、野菜の育て方を教わったり、ホームや併設の施設が水害に遭った際には炊き出しの提案をいただくなど、日常的なつきあいができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで健康上の注意事項など、その時期に応じた議題を上げ、話しをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回必ず実施し、そこでの意見を参考にしている。	会議には、高齢者クラブ、民生委員、地域包括支援センター職員、利用者の参加で2ヵ月毎に開催しています。利用者の生活支援や研修、地域との交流、運営状況など報告し意見交換を行っています。会議中の助言から園芸ができ、利用者の生活に楽しみが増えた事例もあります。	家族の参加ができにくい状況ですが、ホームのことをより理解してもらうためにも、家族に会議録を公開されてはいいでしょうか。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当課と連絡を密にし、情報の交換を行っている。	長年の実績により市との信頼関係が構築されています。併設施設に地域包括支援センターがあり、地域密着型サービス事業所の役割を果たしています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束が禁止であることを理解し援助にあたっている。	「行動制限についての取り組みの指針」を策定し、身体拘束やスピーチロック等、高齢者虐待についての研修も実施しています。玄関やエレベーターには鍵をかけず自由に入出入りすることができます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時や更衣時など、身体をチェックをして注意をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業を利用している利用者があり、関係者と話し合う機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所面接時に重要事項の説明を行っているほか、疑問点や不安な点を聞くようにしている。また、利用者が心身上の理由により退所となった場合には、次の生活の場の情報提供など行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口を設けているほか、市の介護保険課や国保連の苦情受付窓口を重要事項説明書に記載している。また、第三者委員の協力もあり、事業所内に苦情受付の案内を掲示しており、運営に反映させる体制がある。	入居時や介護計画作成時、家族の意見や希望を聞いています。毎月の利用料は原則持参になっていて、家族への報告や意見交換、要望を聞く機会としています。1年に3回発行のグループホームたよりや利用者一人ひとりのアルバムを見てもらうことも、家族の安心につながっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りなどで職員の意見に耳を傾けその都度検討している。	毎日の申し送り時に職員の意見も聞いています。年に2回提出する職員の自己評価シートに、自分が改善しようと思うことや法人に対する要望を記入し、管理者・責任者が定期的に職員の思いを聞いています。家族から、職員が生き生きした表情で働いていると評価され、職場環境の良さが伺えます。	法人内研修は積極的に開催され、ホームの職員も参加していますが、今後はホーム内研修もより充実させ、地域密着型サービスの従事者として、さらなる質の向上が期待されます。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に施設内を巡回し、現場スタッフに声を掛けると共に、管理者に職員の処遇向上についての話し合いを行う機会を随時設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修会に参加できる機会を設け、職員のスキルアップにつなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の連絡協議会、大阪府のグループホーム協議会に参加し、情報の交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	訴えがあるときには必ずその場で聞くようにしているとともに、職員も利用者と一緒にフロアで過ごしている時間があり話しを聞けるようにしている。また、入浴など1対1になれる場所で不安や不満など聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に家族と話しているほか、面会時に希望等聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の環境や性格に応じてサービスの選択肢を提示して相談したりしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一日の生活の中で職員と利用者が一緒に過ごせる時間を設けている。また、利用者ができることを一緒に行い、同じ時間を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族背景も考慮しながら、面会時などに必ず職員と話す機会を設けて、現状説明や対応方法など一緒に考えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族に協力を求める声掛けを入所時に行っている。また、回想法など取り入れたコミュニケーションを行い、援助に活かしている。また、テレビや写真など馴染みの場所があると一緒に見て話している。	職員は生活の継続の大切さを理解し、馴染みの人や場所との関係継続が実現できるように支援しています。日々の支援の中でも昔話にも心がけ、利用者の人生に心を馳せる支援が行われています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの性格や認知症の程度、身体的なレベルの把握に努め、利用者の中に職員も入り、利用者同士が円滑に行動できるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時に、グループホームに関する相談だけでなく、福祉全般の相談はいつでも受けることを伝えると共に、いつでも遊びに来てくれるよう伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者と共に生活している中で、希望や悩みを聞くように努めている。	大阪認知症高齢者グループホーム協議会版の介護計画書様式を使用し、本人や家族の思いや希望を聞き、職員が共有しています。また、日々の関わりの中で職員が気づいたことや発見もカンファレンスで共有し、介護計画の更新に反映しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族に情報提供してもらうほか、本人に昔の話を聞きながら把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりのレベルの把握に努め、日常生活の中でできることを把握し援助に活かしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、家族の希望を踏まえ、職員と話し合い、本人が安心していきいきと生活ができるよう計画作成に努めている。	利用者・家族の希望を聞き、カンファレンスを行い、介護計画を作成しています。モニタリングは定期的に行い、3か月に1回見直しを実施し、状態の変化があった時には随時の見直しを行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状態の変化などケースに記録するようにしている。また、連絡帳などを活用し、利用者の変化の把握に努め介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスに固執せず、希望に応じ考えて対応できる体制がある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員に家庭菜園の助言などをもらっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に協力医療機関を伝えるほか、希望の医療機関を聞くようになっている。また、内科、精神科の医師の診察を決った曜日に受けることができる。	利用者の希望で、入居前からかかりつけの医療機関に受診できる体制になっています。家族の付き添いが困難な場合は職員が付き添っています。ホームでは毎週内科、精神科の定期的な診察を受けることができます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護師がいつでもこられる体制があると共に、いつでも相談でき、日常の健康管理など実施してもらっている。また、24時間体制で看護師と連絡が取れる体制がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際は病院の地域医療の職員と連携をとっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と相談しながらサービスの提供を行っている。また、利用者のレベルの把握に努め、グループホーム職員、医師、家族との面談を行う機会を作り、今後について話ができる体制がある。	重度化した場合は、併設の特別養護老人ホームへの入所支援を行っています。どこまで見られるか、家族の希望を聞きながら支援することになっていますが、ホームで限界とする判断基準は、「歩行が困難になったら」としています。判断基準は入居時に家族にも説明しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルなど作成しているほか、緊急時に対する対処方法を研修や申し送りなどで話している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	特養と合同で避難訓練、初期消火訓練を行っている。年に1回は消防署と合同で訓練している。	避難訓練や消火訓練は併設施設と合同で2カ月に1回実施しています。年に1回は消防署の指導の下、実施しています。他市でのグループホーム火災の後、基本的な部分について再確認を行い、防火対策を確認しました。運営推進会議でも地域への協力を呼びかけています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の自尊心を傷つけることのないよう、一人ひとりの対応や声掛けを変え、声を掛ける際は声のトーンや周りの環境などを考慮して行っている。	個人情報の保護方針と利用目的の規程を作成し、家族に同意をもらっています。職員にも誓約書をとっています。職員は、利用者一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを大切に言葉かけや対応を行っています。居室に鍵をかける利用者もあり、個人のプライバシーが守られています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者によって声掛けの方法やトーンを変えるなど配慮しているほか、利用者には選択権のあるような声掛けをするよう心掛けている。また、利用者、職員ともが納得して活動ができるよう話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその日の体調や気分などに合わせた一日を過ごせるよう支援するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1回、美容師の来園した際に対応している。また、衣類が汚れたりすれば更衣してもらい、好みに合わせた服を着てもらっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のレベルの把握に努め、できる範囲内で一緒に行っている。	併設特養の献立を参考にして、食材の購入や食事作りはホーム独自で行っています。利用者に味見をしてもらったり、盛り付けや後片付けを共にしたりする等、食事を楽しんでいます。利用者の希望を聞き、献立を変更することもあります。家庭菜園で採れた野菜を味わうこともあります。職員も介助をしながら一緒に食事を摂り、和やかな食事時間となっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスの確保のため、特養の献立を参考にしている。また、定期的に水分補給に努めており、なかなか水分をとってもらえない利用者に関しては回数を多くしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、晩は必ず歯磨きの声掛けを実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者に応じて早めにトイレへの誘導を行い、失敗の少ないよう支援している。間に合わないこともあるためリハビリパンツを併用して周囲の目からの配慮をしている。	一人ひとりの排泄習慣やパターンを把握し、基本はトイレ、またはポータブルトイレで排泄できるよう、定期誘導や早めの声かけなどを行い、自立に向けた支援ができるよう職員間で共有ができています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常生活場面での動きを中心に、何らかの役割を持ってもらえるように努めていると共に、食事摂取や水分補給などに努めている。また、医師との相談もしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	夜間入浴は行っていないが、毎日午後からの時間は入浴の時間としており、その時間内で希望に応じ行っている。入浴中は利用者に合わせたペースで入ってもらっている。	希望があれば毎日でも入浴できるよう、毎日午後の時間は入浴時間としています。入浴を好まない利用者には無理強いせず、気分を換えて入浴してもらおうよう、利用者一人ひとりのペースを尊重した支援を行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に何かしらの役割を持ってもらうことで夜間の安眠につながるよう支援している。昼間でも横になって休憩をとれる体制がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の役割をケースにはさむなどし、職員が確認できるようにしている。また、服用時は何度も確認して服用してもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活場面を中心に、利用者の得意なこと、不得意なことなどの把握に努め、役割を持ってもらえるよう支援している。また、レクリエーションや書道、野菜作りなども取り入れ楽しんでもらっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出など家族に協力をしてもらっているほか、時々希望ある利用者と散歩に出かけている。また、買物なども一緒に行くようにしているとともに、季節に応じた外出をしているほか、家族に協力してもらい外出してもらっている。	食材や自分の欲しいものの買物、家族との外出、行事等、外に出かける機会を増やすようにしています。家庭菜園の水やりも、季節や天候を感じながら外の空気に触れるよい機会となっています。	外出は本人の楽しみや喜び、力の発揮の場面となると同時に、これまで培ってきた本人にとっての大切な人や地域との関係の継続にもつながります。利用者一人ひとりの希望、状態に応じて外出の機会がますます増えることが期待されます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族の希望により自己管理している利用者もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望があれば出来るよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた装飾をし、季節感を出しているほか、職員と過ごせる時間を持ち家庭的な雰囲気が出せるよう努力している。	1階は共有スペースの居間兼食堂と台所があり、食事用の大きなテーブルの横にはくつろげるソファが配置され、ゆったりとした空間になっています。居間の奥には2つの和室があり、洗濯物たたみや、団らんする場所になっています。居室は2階にあり、利用者は階段やエレベーターを使って移動しています。1階の共有スペースには利用者の書道や手作り作品が飾られ、楽しい雰囲気を作っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にはたたみの部屋もあり、一人になれる空間はある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人が使い慣れたものなどを持参してもらうようにし、できるだけ入居前の部屋の感じに合わせた居室作りができるよう努めている。	居室からは周辺の田畑が一望でき、明るい居室です。ホームではベッドとタンスを用意していますが、仏壇、テレビ、机、椅子等、使い慣れたものが自由に持ち込まれ、居心地よく過ごせる居室づくりに配慮しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要な場所に手摺りなどがあり、職員の見守りの中、利用者ができる限り自立した生活ができるよう配慮している。		